

新しい時代の学びの環境整備について

高山市政クラブ
石原正裕



問 GIGAスクール構想が全国で推進され、端末の発注等が集中すると予想される。コロナ禍ではリモート学習の対応も必要と捉えている。市は、端末の発注時期、システムの構築、学習指導カリキュラム等、タブレット端末を活用した学びの環境整備をどう推進するのか。

答 児童生徒に1人1台端末の整備は、授業支援ソフト等導入も含め2月末までに小学5、6年生と中学3年生に、その他の学年と高速大容量の通信ネットワークは3月末までに導入、整備予定。ハード・ソフト・指導体制の三位一体でGIGAスクール構想を推進する。



ニーズにあわせた身近な公園の整備について

高山市政クラブ
笠原 等



問 平成31年度の高山市まちづくりアンケート調査では、身近に憩える公園があり、快適な住宅環境が整っているという項目の満足度が26.9%と低いが、市はどう捉えているか。

答 町内会やまちづく協議会などと公園利用のあり方を話し合うなかで、地域のニーズを踏まえながら改修を行っていく。また、多くの市民が利用する比較的規模の大きな公園では、定期的に利用者の意見を聞くほか、利用目的や状況を分析し、必要な改修をするなど公園の用途に応じた整備を進めていくことが、満足度の向上に繋がっていくものと考えている。



次代につなぐ令和の農地農村の構造改革

高山市政クラブ
西本泰輝



問 農業従事者の減少や高齢化が著しく、美しい田園風景も維持できなくなっている。行政のリーダーシップにより地域特性にあった人・農地プランの見直し案を集落等に提案し、議論し話し合う中で将来像を描いて持続可能な農地・農村を創る高山モデルを構築すべきではないか。

答 市内10地域のプラン見直しでは、これまでも農業改良組合をはじめ農業委員、農地利用適正化推進委員などを交え、農地利用の意向アンケート調査を基に話し合いを行っている。市としては、人・農地プランがさらに充実し、実効性あるものとなるよう取り組んでいく。



一之宮町の田園風景

将来を見据えた重点農業振興策は

高山市政クラブ
中谷省悟



問 毎年度25~30名程度の農業後継者や新規就農者はいるが、15年先を考える時、若者が関心を持って農業に取り組むには飛驒のブランド力を生かした魅力ある農業、機械化された人にやさしい農業、仲間づくりで安心できる産地などが考えられるが、市の取り組みは。

答 豊かな田園風景、美しい水や空気の中で作られる安全安心な魅力ある農産物は多くの人に求められる。市では、国や県、農業関係団体とお互いに知恵を絞り新規就農者をはじめとする若者がやりがいを持って未来に繋いでいけるような取り組みを進めていく。

